非行は夏に芽生える

待ちに待った夏休みは、もう目の前。子供たちのはしゃぎ声が聞こえてくるようです。しかし、少年非行の多くは、この長い休みの間に芽生えることが多いのです。7月は「青少年を非行からまもる全国強調月間」。親子で夏休みの過ごし方について考えてみてください。

子供ならだれでも〝親を悲しませたくない〟という気持ちを持っている

俳優　穂積隆信

しかるほど遠のく

娘は、その時まで、それは真面目な子供でした。

その時――中学一年も終わりに近い三月初めのことです。顔をカミソリのようなもので切られて帰ってきました。それからというもの、学校から帰るのが遅くなるし、親を避けるようになりました。わたしばかりか、妻と言葉を交わすことも嫌うようになり、日を追って娘の生活態度がおかしくなってきました。

わたしたち夫婦は、ただ仰天するばかりで、なすすべもなく、とにかく「親として」の面目と世間体を気にして、娘をしかりました。しかし、しかればしかるほど娘は遠のいていき、わたしと妻はただ娘の行動に振り回されるばかりでした。

子供に非行の兆しが見えると、親は怒ります。すると、子供は逃げる、つまり親を避けるようになりますが、親は逃げる子供を追い詰めてはしかり、ときには暴力を振るうようになる――これでは、親子の関係はこじれるばかりです。

好奇心から面白半分にシンナーを口にしたにすぎないのに、あまりにもひどい怒り方をする親の態度に嫌気がさして、身も心もシンナーに奪われていく――そういったケースも多いのです。

子供の心が見えないとき

子供の心が見えなくなった親というのは、子供にしてみれば、ただ恐ろしく、うとましいものにしか映らないようです。こうなると、子供は親にも世間にも背を向けて、自分の世界に立てこもってしまいます。

子供にとって家庭は〝港〟

子供にとって、わが家はいつでも安心して停泊できる〝港〟のようなものです。しかし、一日を終えて〝港〟に帰ってきても、頭からポンポンお説教を並べられるばかりでは、面白いはずがありません。

〝身も心も安らぐ、世界でいちばん素晴らしい港〟――子供がそう思えるような家庭づくりをすることが、非行防止を考えるうえで何よりも大切なことではないでしょうか。

子供が自発的に、自ら心を開いて親に話しかけられる、何ごとも相談できるムードづくりを心掛けたいものです。

そのためには、まず、あいさつを忘れない家庭関係をつくることです。朝、夕に顔を合わせても子供があいさつをしないなら、親のほうから積極的に「おはよう」「おかえり」「おやすみ」と声をかけてください。そして、子供の心が常に家族に向かって開いている――そういう家庭づくりを目指したいものです。

常に変わらぬ愛情を

親は、子供が順調に育っているときは、あれこれと世話をやき、一生懸命、愛情を注ぎます。しかし、子供が少し悪さをしたり、非行の芽が出かかったようなとき「こんなに、お前のためを思ってやっているのに、どうして親を裏切るの」などと、悲鳴をあげがちです。が、ちょっと待ってください。肝心なのは、子供がどういう状況にあっても、常に変わらぬ愛情を注ぎ続けることではないでしょうか。

子供ならだれでも、親を悲しませたくないという気持ちを持っている、そう信じたいのです。親が、常に本気で子供と付き合っていく態度を貫けば、非行の芽など育つはずがないと思います。

皆さんの協力を　野栄町で死亡ひき逃げ事故

六月十二日午前一時四十分頃、県道八日市場野栄線の丸善石油スタンド前において死亡ひき逃げ事故が発生しております。

事故を目撃した。あるいは現場を通過し事故の物音等を聞いた、人が歩いているのを見た、不審な車をみかけた等、情報をお寄せください。八日市場警察署の電話番号は次のとおりです。

TEL　〇四七九七(二)一三〇五

生活こぼればなし ⑧

プラットホーム

駅で九つになる孫と電車を待っていた。電車が着くや孫は乗客の間をかいくぐり、電車に乗ってしまった。さて、私が乗る番になり、人に押されてもたもたしていると、孫の声。

「おじいちゃん、何マゴマゴしているのよ！」